

Docket No. 1075.1123/JDH

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:

Satoshi MUKOGAWA

Serial No.: To Be Assigned

Filed: November 23, 1999

For: AUTOMATED FINANCIAL TRANSACTION SYSTEM

Group Art Unit: To Be Assigned

Examiner: To Be Assigned



**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN**  
**APPLICATION IN ACCORDANCE**  
**WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. §1.55**

*Assistant Commissioner of Patents*  
*Washington, D.C. 20231*

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. §1.55, Applicants submit herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 11-173901, filed June 21, 1999.

It is respectfully requested that Applicants be given the benefit of the foreign filing date as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements of 35 U.S.C. §119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY

By:

James D. Halsey, Jr.  
Registration No. 22,729

Date: November 23, 1999

700 Eleventh Street, N.W.  
Suite 500  
Washington, D.C. 20001  
(202) 434-1500

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

JCS03 U.S. PTO  
09/447658  
11/23/99

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 1999年 6月21日

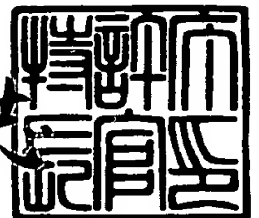
出願番号  
Application Number: 平成11年特許願第173901号

出願人  
Applicant(s): 富士通株式会社

1999年 8月16日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

伴佐山 建志



出証番号 出証特平11-3057272

【書類名】 特許願

【整理番号】 9950282

【提出日】 平成11年 6月21日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G07D 9/00  
G06F 15/00

【発明の名称】 自動取引システム

【請求項の数】 16

【発明者】  
【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 富士通株式会社内

【氏名】 向川 聡

【特許出願人】  
【識別番号】 000005223  
【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】  
【識別番号】 100092978  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 真田 有  
【電話番号】 0422-21-4222

【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 007696  
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】  
【物件名】 明細書 1  
【物件名】 図面 1  
【物件名】 要約書 1  
【包括委任状番号】 9704824

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 自動取引システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 顧客の操作に応じて各種取引を行なう複数の自動取引装置と

、  
専用線を介して該複数の自動取引装置と通信可能に接続され、取引を管理する管理装置とをそなえてなる自動取引システムであって、

該複数の自動取引装置のうちの第 1 の自動取引装置が、振込取引時に振込先に対するメッセージを入力するためのメッセージ入力部を有するとともに、公衆通信網を介して、該メッセージ入力部から入力されたメッセージを保管するメッセージ保管部と通信可能に接続され、

該第 1 の自動取引装置において顧客が振込取引時に該メッセージ入力部から振込先に対するメッセージを入力した場合、そのメッセージを、該第 1 の自動取引装置から該公衆通信網を介して該メッセージ保管部へ送信し該メッセージ保管部で保管するとともに、振込情報とそのメッセージの保管場所情報とを、該第 1 の自動取引装置から該専用線を介して該管理装置へ送信し該管理装置により管理することを特徴とする、自動取引システム。

【請求項 2】 該第 1 の自動取引装置と情報端末とが該公衆通信網を介して通信可能に接続されており、

該第 1 の自動取引装置が、該公衆通信網を介して該情報端末に対し前記メッセージの保管場所情報を通知することを特徴とする、請求項 1 記載の自動取引システム。

【請求項 3】 該管理装置と情報端末とが該公衆通信網を介して通信可能に接続され、

該管理装置が、該公衆通信網を介して該情報端末に対し前記メッセージの保管場所情報を通知することを特徴とする、請求項 1 記載の自動取引システム。

【請求項 4】 該情報端末において、振込先顧客が前記メッセージの保管場所情報の通知を認識した場合、振込元からのメッセージを、通知された保管場所情報に基づいて該メッセージ保管部から読み出し該情報端末で再生することを特

徴とする、請求項 2 または請求項 3 に記載の自動取引システム。

【請求項 5】 該複数の自動取引装置のうちの第 2 の自動取引装置が、該公衆通信網を介して該メッセージ保管部と通信可能に接続されるとともに、該メッセージ保管部に保管されている振込元からのメッセージを再生するメッセージ再生部を有しており、

該第 2 の自動取引装置において、振込先顧客が振込元からのメッセージがあることを認識した場合、振込元からのメッセージを、該管理装置から得た保管場所情報に基づいて該メッセージ保管部から読み出し、該メッセージ再生部で再生することを特徴とする、請求項 1 記載の自動取引システム。

【請求項 6】 該複数の自動取引装置のうちの第 2 の自動取引装置において、振込先顧客が振込元からのメッセージがあることを認識した場合、振込元からのメッセージの保管場所情報を、該管理装置から得て、前記振込先顧客の通帳に印字し、前記振込先顧客に通知することを特徴とする、請求項 1 記載の自動取引システム。

【請求項 7】 該複数の自動取引装置のうちの第 2 の自動取引装置において、振込先顧客が振込元からのメッセージがあることを認識した場合、振込元からのメッセージの保管場所情報を、該管理装置から得て、前記振込先顧客への伝票に印字し、前記振込先顧客に通知することを特徴とする、請求項 1 記載の自動取引システム。

【請求項 8】 該メッセージ保管部が、該公衆通信網を介して、該メッセージ保管部に保管されている振込元からのメッセージを再生するメッセージ再生機能付き情報端末と通信可能に接続され、

該メッセージ再生機能付き情報端末において、振込元からのメッセージを、通知された保管場所情報に基づいて該メッセージ保管部から読み出し該メッセージ再生機能付き情報端末で再生することを特徴とする、請求項 2，請求項 3，請求項 6 および請求項 7 のいずれか 1 項に記載の自動取引システム。

【請求項 9】 該管理装置が、該公衆通信網を介して、振込取引機能と振込取引時に振込先に対するメッセージを入力するためのメッセージ入力機能とを有する情報端末と通信可能に接続され、

該情報端末において顧客が振込取引時に該メッセージ入力機能により振込先に対するメッセージを入力した場合、そのメッセージを、該情報端末から該公衆通信網を介して該メッセージ保管部へ送信し該メッセージ保管部で保管するとともに、振込情報とそのメッセージの保管場所情報とを、該情報端末から該公衆通信網を介して該管理装置へ送信し該管理装置により管理することを特徴とする、請求項 1 記載の自動取引システム。

【請求項 10】 該第 1 の自動取引装置において行なわれた振込取引が、該管理装置で用いられる電文形式とは異なる電文形式により取引を管理する他の管理装置下に属する振込先に対するものである場合、振込情報とそのメッセージの保管場所情報とを、該第 1 の自動取引装置から該専用線を介して該管理装置へ送信し、さらに、該管理装置から該他の管理装置へ送信することを特徴とする、請求項 1 記載の自動取引システム。

【請求項 11】 該他の管理装置により管理される第 3 の自動取引装置が、該公衆通信網を介して該メッセージ保管部と通信可能に接続されるとともに、該メッセージ保管部に保管されている振込元からのメッセージを再生するメッセージ再生部を有しており、

該第 3 の自動取引装置において、振込先顧客が振込元からのメッセージがあることを認識した場合、振込元からのメッセージを、該他の管理装置から得た保管場所情報に基づいて該メッセージ保管部から読み出し、該メッセージ再生部で再生することを特徴とする、請求項 10 記載の自動取引システム。

【請求項 12】 前記メッセージが画像データを含むことを特徴とする、請求項 1～請求項 11 のいずれか 1 項に記載の自動取引システム。

【請求項 13】 前記メッセージが音声データを含むことを特徴とする、請求項 1～請求項 12 のいずれか 1 項に記載の自動取引システム。

【請求項 14】 該公衆通信網がインターネットを含むことを特徴とする、請求項 1～請求項 13 のいずれか 1 項に記載の自動取引システム。

【請求項 15】 該公衆通信網がイントラネットを含むことを特徴とする、請求項 1～請求項 14 のいずれか 1 項に記載の自動取引システム。

【請求項 16】 該メッセージ保管部が、該公衆通信網に接続されたメッセ

ージサーバであることを特徴とする、請求項 1～請求項 1 5 のいずれか 1 項に記載の自動取引システム。

【発明の詳細な説明】

（目次）

発明の属する技術分野

従来の技術

発明が解決しようとする課題

課題を解決するための手段

発明の実施の形態（図 1～図 9）

発明の効果

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、顧客の操作に応じて各種取引を行なう複数の自動取引装置と、専用線を介して複数の自動取引装置と通信可能に接続され、取引を管理するホストコンピュータとをそなえた自動取引システムであって、金融機関等における振込取引に用いて好適な、自動取引システムに関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来の金融機関等における自動取引システムにおいて、自動取引装置（A T M : Automated Tellers Machine）を用いて特定の振込先へ振込取引を行なう際には、振込依頼人（振込元）が、振込先に関する情報とともに振込依頼人の名前や電話番号等を A T M の操作パネル等から入力したり、又、これらの情報をあらかじめ登録して作成した振込券等を用いたりすることにより、振込元に関する情報を入力するようになっている。

【0 0 0 3】

そして、勘定系ホストコンピュータ（管理装置）においては、A T M から入力された処理に従って振込処理を行なうとともに、上述のごとく入力された振込元に関する情報を振込先に送信し、例えば、振込先の通帳等に振込依頼人名等を印字する。振込先においては、これらの振込元に関する情報（依頼人名等）に基づ

いて振込元を判別し、特定するのである。

【0004】

また、振込元の確認の便宜等を図るために、振込取引に伴って振込先に対するメッセージを付加したいという要求がある。

例えば、ATMにおける振込処理時に、キーボードからメッセージを入力させる手法（特開昭61-153762号公報参照）や、あらかじめ設定された複数の定型文をATMの表示部に表示して、振込依頼人がこれらの定型文の中から所望の定型文を選択できるようにしておき、振込依頼人が特定の定型文を選択すると、振込先の通帳等に、上述の情報（振込依頼人名や電話番号等）とともに選択された定型文を印字する手法（特開平10-91841号公報参照）も知られており、これらにより、振込依頼人（振込元）から振込先に対して、上述の情報（振込依頼人名、電話番号等）以外のメッセージを伝達して、振込先顧客や振込依頼人の利便性を向上させている。

【0005】

しかしながら、これらのような振込先に対して定型文等の文字のメッセージを送信する手法では、伝達されるメッセージが文字や記号だけなので、振込依頼人（振込元）と振込先顧客との間のコミュニケーションは限定されたものになり、又、振込先顧客が振込元を確認する際においても、振込先顧客は、通帳や伝票に印字された振込依頼人名やメッセージの内容から振込元を判断しなければならず、実際に振込取引を行なった者を確認することができない。

【0006】

そこで、ATMにおける振込取引時に、振込依頼人に、文字や手書き文字／手書き画像等による振込先に対するメッセージを入力ペン等を用いて入力させ、このメッセージをテキストデータやイメージデータとして振込情報に付加してホストコンピュータに送信して、振込先の通帳や伝票に記入することにより、振込取引時における利便性を向上させる手法が特開平9-218971号公報に開示されている。

【0007】

また、ATMにおける振込取引時に、振込依頼人に、ATMにそなえられた力



メラや音声入力部から振込先に対するメッセージ（画像、音声）を入力させ、これらの画像や音声による振込元からのメッセージを振込先に関する情報とともに勘定系ホストコンピュータに保管しておき、その後、振込先顧客がATMを用いて取引を行なった時に、勘定系ホストコンピュータに保管しているこれらのメッセージを、かかるATMに電文として送信し、このメッセージをATMの出力装置から出力する手法が特開平7-319975号公報に開示されている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述の従来の自動取引システムにおいて、特開平9-218971号公報や、特開平7-319975号公報に開示されたような、画像や音声を振込先に対するメッセージとして送受信する手法においては、これらの画像や音声のメッセージを、一旦、勘定系ホストコンピュータに電文として登録するのであるが、一般に画像や音声はテキストデータと比較してデータ量が膨大になるので、勘定系ホストコンピュータにおいて大量のメッセージデータを記憶するための記憶領域を確保しなければならず、又、ATMと勘定系ホストコンピュータとを接続する通信回線においては、大量のデータの送受信に耐えうる高速な通信回線が必要になる。従って、この手法を実現するためには既存の情報基盤を全て変更しなければならず、多大な設備投資が必要になり、現状のシステムで実際にこの手法を用いてメッセージの送受信を行なうことは不可能である。

【0009】

さらに、一般に、金融機関毎で勘定系ホストコンピュータの電文形式が異なるので、データの電文形式を変換する必要がある。このとき、振込情報等のテキストデータに関してはデータ量が比較的少ないので高速に変換することができるのであるが、画像データや音声データのような大量のデータの変換には多大な時間を要するので、画像データや音声データを含むメッセージの送信は実質的に不可能である。

【0010】

本発明は、このような課題に鑑み創案されたもので、メッセージの送受信経路および保管場所に工夫を施すことにより、自動取引装置において、振込元から振

込先に対してデータ量の大きい画像データや音声データを含むメッセージを送信することができるほか、電文形式の異なる管理装置下に属する振込先にも画像データや音声データを含むメッセージを送信することができ、更に、振込先においては、場所、時間、端末等の制約を受けることなくメッセージを送受信することができるようにして、顧客の利便性の向上をはかった自動取引システムを提供することを目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】

このため、本発明の自動取引システムは、顧客の操作に応じて各種取引を行なう複数の自動取引装置と、専用線を介して複数の自動取引装置と通信可能に接続され、取引を管理する管理装置とをそなえてなる自動取引システムであって、複数の自動取引装置のうちの第1の自動取引装置が、振込取引時に振込先に対するメッセージを入力するためのメッセージ入力部を有するとともに、公衆通信網を介して、メッセージ入力部から入力されたメッセージを保管するメッセージ保管部と通信可能に接続され、第1の自動取引装置において顧客が振込取引時にメッセージ入力部から振込先に対するメッセージを入力した場合、そのメッセージを、第1の自動取引装置から公衆通信網を介してメッセージ保管部へ送信しこのメッセージ保管部で保管するとともに、振込情報とそのメッセージの保管場所情報とを、第1の自動取引装置から専用線を介して管理装置へ送信し管理装置により管理することを特徴としている（請求項1）。

【0012】

なお、請求項1記載の自動取引システムにおいて、第1の自動取引装置と情報端末とが公衆通信網を介して通信可能に接続されており、第1の自動取引装置が、公衆通信網を介して情報端末に対しメッセージの保管場所情報を通知してもよい（請求項2）。

また、管理装置と情報端末とが公衆通信網を介して通信可能に接続され、管理装置が、公衆通信網を介して情報端末に対しメッセージの保管場所情報を通知してもよい（請求項3）。

【0013】

さらに、情報端末において、振込先顧客がメッセージの保管場所情報の通知を認識した場合、振込元からのメッセージを、通知された保管場所情報に基づいてメッセージ保管部から読み出し情報端末で再生してもよい（請求項4）。

また、複数の自動取引装置のうちの第2の自動取引装置が、公衆通信網を介してメッセージ保管部と通信可能に接続されるとともに、メッセージ保管部に保管されている振込元からのメッセージを再生するメッセージ再生部を有しており、第2の自動取引装置において、振込先顧客が振込元からのメッセージがあることを認識した場合、振込元からのメッセージを、管理装置から得た保管場所情報に基づいてメッセージ保管部から読み出し、メッセージ再生部で再生してもよい（請求項5）。

【0014】

なお、複数の自動取引装置のうちの第2の自動取引装置において、振込先顧客が振込元からのメッセージがあることを認識した場合、振込元からのメッセージの保管場所情報を、管理装置から得て、振込先顧客の通帳に印字し、振込先顧客に通知してもよく（請求項6）、又、振込先顧客への伝票に印字し、前記振込先顧客に通知してもよい（請求項7）。

【0015】

また、メッセージ保管部が、公衆通信網を介して、メッセージ保管部に保管されている振込元からのメッセージを再生するメッセージ再生機能付き情報端末と通信可能に接続され、メッセージ再生機能付き情報端末において、振込元からのメッセージを、通知された保管場所情報に基づいてメッセージ保管部から読み出しメッセージ再生機能付き情報端末で再生してもよい（請求項8）。

【0016】

さらに、管理装置が、公衆通信網を介して、振込取引機能と振込取引時に振込先に対するメッセージを入力するためのメッセージ入力機能とを有する情報端末と通信可能に接続され、情報端末において顧客が振込取引時に該メッセージ入力機能により振込先に対するメッセージを入力した場合、そのメッセージを、情報端末から公衆通信網を介してメッセージ保管部へ送信しこのメッセージ保管部で保管するとともに、振込情報とそのメッセージの保管場所情報とを、情報端末か

ら公衆通信網を介して管理装置へ送信しこの管理装置により管理してもよい（請求項 9）。

【0017】

また、第 1 の自動取引装置において行なわれた振込取引が、管理装置で用いられる電文形式とは異なる電文形式により取引を管理する他の管理装置下に属する振込先に対するものである場合、振込情報とそのメッセージの保管場所情報とを、第 1 の自動取引装置から専用線を介して管理装置へ送信し、さらに、管理装置から他の管理装置へ送信してもよい（請求項 10）。

【0018】

さらに、他の管理装置により管理される第 3 の自動取引装置が、公衆通信網を介してメッセージ保管部と通信可能に接続されるとともに、メッセージ保管部に保管されている振込元からのメッセージを再生して出力するメッセージ再生部を有しており、第 3 の自動取引装置において、振込先顧客が振込元からのメッセージがあることを認識した場合、振込元からのメッセージを、他の管理装置から得た保管場所情報に基づいてメッセージ保管部から読み出し、メッセージ再生部で再生してもよい（請求項 11）。

【0019】

なお、メッセージが画像データを含んでもよく（請求項 12）、又、メッセージが音声データを含んでもよい（請求項 13）。

また、公衆通信網がインターネットを含んでもよく（請求項 14）、公衆通信網がイントラネットを含んでもよい（請求項 15）。

さらに、メッセージ保管部が、公衆通信網に接続されたメッセージサーバであってもよい（請求項 16）。

【0020】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

図 1 は本発明の一実施形態としての自動取引システムの構成を示すブロック図であり、本自動取引システムは、この図 1 に示すように、勘定系ホストコンピュータ（管理装置）1，ATM（第 1 の自動取引装置）2，ATM（第 2 の自動取

引装置) 3, メッセージサーバ 4, パーソナルコンピュータ (情報端末) 5, 6, 情報端末 (メッセージ再生機能付き情報端末) 7, 勘定系ホストコンピュータ (他の管理装置) 8, A T M (第 3 の自動取引装置) 9, インターネット/イントラネット (公衆通信網) 11 および専用線 13 ~ 16 をそなえて構成されている。

【0021】

インターネット/イントラネット (Internet / Intranet) 11 は、ローカルなネットワークを相互接続して構成されたネットワーク (公衆通信網) であり、特定機関の内部的な情報システムとしてインターネット技術を用いて構築されたイントラネットや、このイントラネットどうしを相互接続して構成するエクストラネット (Extranet) を含むものである。

【0022】

イントラネットは、ともに特定機関の内部的な情報システムとしてインターネット技術を用いて構築されたネットワーク (公衆通信網) であって、ファイアウォール等のセキュリティ技術によって正当な権利を有していない者の外部からの不正なアクセスから保護されていて、各金融機関の構内通信システムとして構築されている。

【0023】

A T M (Automated Tellers Machine) 2, 3 は、ともに顧客の操作に応じて各種取引を行なうものである。

A T M 2 は、顧客の操作に応じて各種取引を行なうものであって、勘定系ホストコンピュータ 1 と専用線 13 を介して通信可能に接続されており、A T M 2 における操作部から顧客が行なった種々の処理内容 (振込手続等) を勘定系ホストコンピュータ 1 に送信し、又、勘定系ホストコンピュータ 1 からの種々の命令やデータ等を受信して表示部 (後述するディスプレイ 34) に表示させたりするようになっている。

【0024】

なお、A T M 2, 3, 9, パーソナルコンピュータ 5, 6 および情報端末 7 は、それぞれ本自動取引システムにおいて複数そなえられているのであるが、図 1

においては、便宜上、それぞれ 1 台ずつ示している。

また、A T M 2 は、音声再生出力部（メッセージ再生部）3 1，音声入力部（メッセージ入力部）3 2，画像入力部（メッセージ入力部）3 3 およびディスプレイ（画像再生出力部，メッセージ再生部）3 4 をそなえて構成されている。

【0 0 2 5】

音声再生出力部 3 1 は、A T M 2 から顧客への音声による指示を出力したり、振込元からの音声によるメッセージ（音声データ）の再生を行なうためのもので、例えば、スピーカによって構成されている。音声入力部 3 2 は、顧客（振込依頼人）の音声によるメッセージを A T M 内に音声データとして取り込むためのものであり、例えば、マイクによって構成される。なお、本実施形態においては、これらの音声再生出力部 3 1 および音声入力部 3 2 は、受話器のスピーカおよびマイクとして構成されている。

【0 0 2 6】

画像入力部 3 3 は、顧客の画像によるメッセージを A T M 2 内に画像データとして取り込むためのものであり、例えば、カメラ，スキャナ，種々の入力端子等によって構成される。

ディスプレイ 3 4 は、例えば、タッチセンサパネルをそなえたモニタにより構成され、A T M 2 の表示部および操作部として機能するとともに、後述するごとく画像データのメッセージを再生する画像再生出力部としても機能するようになっている。

【0 0 2 7】

さらに、A T M 2 は、L A N ボード等（図示せず）を介してインターネット／イントラネット 1 1 に通信可能に接続されていて、後述するように、顧客（振込依頼人）が振込取引時に音声入力部 3 2 や画像入力部 3 3 を介して入力した振込先に対するメッセージ（音声データや画像データ）を、インターネット／イントラネット 1 1 に接続されたメッセージサーバ 4 に送信するようになっている。

【0 0 2 8】

さらに、A T M 2 においては、振込先顧客が、A T M 2，9 等において伝票や通帳に印字されたメッセージ保管場所情報に基づいて、例えば、インターネット

アドレス等をその入力手段を用いて入力することにより、メッセージサーバ4によって保管されているそのメッセージを読み出して再生することができるようになってい

【0029】

そして、ATM2は、振込取引時に顧客が行なった振込取引に関する情報（振込情報）と、メッセージサーバ4から送信されたメッセージの保管場所情報とを専用線13を介して勘定系ホストコンピュータ1に送信するようになっている。

ATM3も、顧客の操作に応じて各種取引を行なうものであって、勘定系ホストコンピュータ1と専用線13を介して通信可能に接続されており、ATM3において顧客が行なった種々の処理内容（振込手続等）を勘定系ホストコンピュータ1に送信し、又、この勘定系ホストコンピュータ1から送信される種々の命令やデータ等を受信して表示部に表示させたりするようになっている。

【0030】

また、ATM3は、音声再生出力部（メッセージ再生部）31、音声入力部（メッセージ入力部）32、画像入力部33（メッセージ入力部）33およびディスプレイ（画像再生出力部、メッセージ再生部）34をそなえて構成されており、画像入力部33をそなえていない他は、前述のATM2と同様の構成・機能を有している。

【0031】

専用線13～16は、それぞれ特定の区間を交換機を介することなく固定的に設定される特定通信回線であり、具体的には、専用線13は勘定系ホストコンピュータ1とATM2とを、専用線14はATM3と勘定系ホストコンピュータ1とを、専用線15は勘定系ホストコンピュータ1と勘定系ホストコンピュータ8とを、専用線16は勘定系ホストコンピュータ8とATM9とをそれぞれ通信可能に接続するためのものである。

【0032】

メッセージサーバ4は、ハードディスク41をそなえており、又、インターネット／イントラネット11に接続されていて、このインターネット／イントラネット11を介して、ATM2、3、9、パーソナルコンピュータ5、6および情

報端末 7 と通信可能に接続されている。

そして、メッセージサーバ 4 は、ATM 2, 3, 9 やパーソナルコンピュータ 6 (後述) からそれぞれ送信されたメッセージを受信したときに、それらのメッセージをハードディスク 41 内に保管するようになっており、ATM 2, 3, 9 やパーソナルコンピュータ 6 の画像入力部 33 や音声入力部 32 から入力されたメッセージを保管する、メッセージ保管部として機能するようになっている。

【0033】

また、メッセージサーバ 4 は、メッセージをハードディスク 41 に保管した後、そのメッセージの保管場所 (例えば、インターネットアドレス) を保管場所情報として ATM 2, 3, 9 やパーソナルコンピュータ 6 に送信するようになっている。

さらに、メッセージサーバ 4 によってハードディスク 41 に保管されたメッセージは、ATM 2, 3, 9, パーソナルコンピュータ 5, 6 および情報端末 7 から、それぞれインターネット/イントラネット 11 を介して読み出すことができるようになっており、更に、これらの ATM 2, 3, 9, パーソナルコンピュータ 5, 6 および情報端末 7 において、これらの読み出されたメッセージを再生することができるようになっている。

【0034】

また、これらの ATM 2, 3, 9, パーソナルコンピュータ 5, 6 および情報端末 7 によって、ハードディスク 41 に保管されたこれらのメッセージを消去することもできるようになっている。

パーソナルコンピュータ (情報端末) 5 は、LAN ボード (図示せず) 等を介してインターネット/イントラネット 11 に接続されており、インターネット/イントラネット 11 に接続されている ATM 2, 3, 9 やパーソナルコンピュータ 6 等から送信された電子メールを受信することができるようになっている。

【0035】

また、パーソナルコンピュータ 5 は、画像 (静止画像や動画) をディスプレイ 34 に表示するための機能 (例えば、インターネット・エクスプローラやネットスケープ・ナビゲータ等のブラウザ) や、音声を再生するための機能 (スピーカ



）をそなえていて、メッセージサーバ4によって保管されているメッセージをインターネット／イントラネット11を介して読み出して再生することができるようになっている。

【0036】

パーソナルコンピュータ（情報端末）6も、パーソナルコンピュータ5と同様に、LANボード（図示せず）等を介してインターネット／イントラネット11に接続されており、ATM2, 3, 9やパーソナルコンピュータ5等から送信された電子メールを受信することができるようになっており、更に、画像や音声を再生する機能（スピーカ31' およびディスプレイ34'）をそなえている。

【0037】

さらに、パーソナルコンピュータ6は、勘定系ホストコンピュータ1ともインターネット／イントラネット11を介して通信可能に接続されており、現金の取り扱いを伴わない種々の取引、例えば、振込処理や残高確認等を行なうことができるようになっている。そして、パーソナルコンピュータ6は、顧客が行なったこれらの取引に関する情報をインターネット／イントラネット11を介して勘定系ホストコンピュータ1に送信したり、勘定系ホストコンピュータ1から送信される種々の命令やデータ等を受信して処理するようになっている。

【0038】

また、パーソナルコンピュータ6は、音声入力部32' および画像入力部33' をそなえており、振込処理時に、音声入力部32' を用いて音声によるメッセージ（音声データ）を入力したり、画像入力部33' を用いて画像によるメッセージ（画像データ）を入力したりすることができるようになっている。

さらに、パーソナルコンピュータ6は、振込処理を行なった顧客（振込依頼人）が振込取引時に音声入力部32' や画像入力部33' を用いて入力した振込先に対するメッセージ（音声データ、画像データ）を、インターネット／イントラネット11に接続されたメッセージサーバ4に送信するようになっており、更に、このメッセージサーバ4から送信される、このメッセージの保管場所情報を受信するようになっている。

【0039】

そして、パーソナルコンピュータ 6 は、顧客が行なった振込取引に関する情報（振込情報）と、メッセージサーバ 4 から送信されたメッセージの保管場所情報とを、専用線 13 を介して勘定系ホストコンピュータ 1 に送信するようになっている。

情報端末（メッセージ再生機能付き情報端末）7 は、スピーカ 31" およびディスプレイ 34" をそなえとともに、キーボードやタッチパネル等の図示しない入力手段をそなえて構成されており、又、LAN ボード（図示せず）等を介してインターネット／イントラネット 11 に接続されている。

【0040】

また、情報端末 7 は、画像（静止画像、動画を含む）をディスプレイ 34" に表示するための機能（例えば、インターネットエクスプローラやネットスケープ・ナビゲータ等のブラウザ）や、スピーカ 31" で音声を再生するための機能をそなえており、インターネット／イントラネット 11 を介してメッセージサーバ 4 に保管されている振込元からのメッセージを再生するメッセージ再生機能を有している。

【0041】

そして、情報端末 7 においては、振込先顧客が、ATM 2, 3, 9 等において伝票や通帳に印字されたメッセージ保管場所情報に基づいて、例えば、インターネットアドレス等をその入力手段を用いて入力することにより、メッセージサーバ 4 によって保管されているそのメッセージを読み出して再生することができるようになっている。なお、この情報端末 7 は、例えばコンビニエンスストアや駅等に配設される。

【0042】

勘定系ホストコンピュータ 8 も、専用線を介して複数の ATM と通信可能に接続されるものであって、勘定系ホストコンピュータ 1 が属する金融機関とは異なる金融機関において、顧客の預金口座やその口座における預金残高等の取引を管理するものである。

この勘定系ホストコンピュータ 8 は、勘定系ホストコンピュータ 1 で用いられる電文形式とは異なる電文形式により取引を管理するものであって、他の管理装

置として機能するものである。そして、勘定系ホストコンピュータ 8 は、ATM 9 と専用線 16 を介して通信可能に接続されていて、ATM 9 において顧客によって行なわれた各種の取引を管理するようになっている。

【0043】

そして、勘定系ホストコンピュータ 8 と勘定系ホストコンピュータ 1 との間においては、取引情報（振込情報等）とともに、少なくともメッセージの保管場所情報を専用線 15 を介して相互に送受信できるようになっている。

ATM 9 は、前述の ATM 2, 3 と同様に、顧客の操作に応じて各種取引を行なうものであって、音声再生出力部（メッセージ再生部）31, 音声入力部（メッセージ入力部）32, 画像入力部（メッセージ入力部）33 およびディスプレイ（画像再生出力部, メッセージ再生部）34 をそなえて構成されている。

【0044】

また、ATM 9 は、勘定系ホストコンピュータ 8 と専用線 16 を介して通信可能に接続されており、ATM 9 において顧客が行なった種々の処理内容（振込手続等）を勘定系ホストコンピュータ 8 に送信し、又、勘定系ホストコンピュータ 8 からの種々の命令やデータ等を受信するようになっている。

さらに、ATM 9 は、LAN ボード等（図示せず）を介してインターネット／イントラネット 11 に通信可能に接続されており、勘定系ホストコンピュータ 8 から送信されたメッセージの保管場所情報に基づいて、インターネット／イントラネット 11 を介して、メッセージサーバ 4 に保管されたメッセージにアクセスして、これを再生することができるようになっている。

【0045】

なお、本実施形態においては、顧客が ATM 9 から勘定系ホストコンピュータ 1 の下に属する振込先に対して振込取引を行なう場合においても、ATM 9 の音声入力部 32 および画像入力部 33 から振込先に対してのメッセージを入力することができるようになっている。

この場合において、ATM 9 において顧客によって入力されたメッセージは、インターネット／イントラネット 11 に接続されたメッセージサーバ 4 や、他のメッセージサーバ（図示せず）等に保管され、そのメッセージの保管場所（例え

ば、インターネットアドレス）が保管場所情報としてATM9に通知される。

【0046】

そして、ATM9は、これらのメッセージの保管場所情報を振込情報とともに勘定系ホストコンピュータ8に送信し、勘定系ホストコンピュータ8は、これらの振込情報とそのメッセージの保管場所情報とを顧客の預金口座やその口座における取引情報等とともに管理するようになっている。

上述の構成により、本自動取引システムにおいて振込依頼人（顧客）が振込先に対する振込取引を行ない、振込先顧客がその振込を確認する過程を、（1）ATM2におけるメッセージの入力、（2）パーソナルコンピュータ6におけるメッセージの入力、（3）ATM3におけるメッセージの受信・再生、（4）パーソナルコンピュータ5におけるメッセージの受信・再生、（5）パーソナルコンピュータ6におけるメッセージの受信・再生、（6）情報端末7におけるメッセージの受信・再生、および（7）ATM9におけるメッセージの受信・再生の各工程に分けてそれぞれ説明する。

【0047】

（1）ATM2におけるメッセージの入力

図2は、本システムのATM2におけるメッセージの入力および送信に関する工程を説明するためのフローチャート（ステップA1～A9）、図3～図6はそれぞれディスプレイ34に表示される画面の表示例を示すものであって、図3は振込先顧客に対してメッセージを送信するか否かを確認するための画面の表示例を示す図、図4は振込先顧客によりメッセージの送信を要求されている場合の画面の表示例を示す図、図5および図6はともに振込先顧客の電子メールアドレスを入力する場合の画面の表示例を示す図である。

【0048】

なお、本実施形態においては、振込依頼人（顧客）がATM2を用いて振込先に対して振込処理を行なうものであり、このATM2が第1の自動取引装置として機能する場合について説明する。

さて、ATM2において振込依頼人が振込先顧客に対する振込処理を行なうと、ATM2は、そのディスプレイ34に、図3に示すような「振込先様宛にメッ

セージを送信しますか？」という画面を表示させて、振込先顧客に対するメッセージの入力を行なうかどうかの確認を行なう（ステップA1）。

【0049】

なお、本システムにおいては、振込先顧客が、振込先顧客の口座に対して振込取引を行なう全ての振込依頼人にメッセージの入力を要求するように、あらかじめ勘定系ホストコンピュータ1に設定することができるようになっており、このような設定を行なった場合には、図4に示すような「振込先様よりメッセージの送信を要求されています。メッセージを送信します。」という画面を表示させてもよい。

【0050】

振込依頼人がメッセージの入力を行なう場合には（ステップA1のYESルート参照）、ATM2は、メッセージの入力開始の合図をディスプレイ34や音声再生出力部31から行なった後、画像入力部33により振込依頼人を撮影したり、音声入力部32により振込依頼人の音声の録音を行なうことにより、振込依頼人の振込先顧客に対するメッセージの入力を行なう（ステップA2）。なお、このとき、ディスプレイ34にキー入力部（例えば、図5参照）を表示し、このキー入力部を操作することにより、テキストデータによるメッセージを合わせて入力することも可能である。

【0051】

そして、ATM2は、これらの入力されたメッセージをディスプレイ34や音声再生出力部31によって再生し、振込依頼人に、この再生されたメッセージを送信してよいかどうかを確認する（ステップA3）。

振込依頼人が再生されたメッセージを気に入らず、再度メッセージの入力を行なう旨の選択を行なった場合には（ステップA3のNOルート参照）、再度、ステップA2に戻る。又、振込依頼人が、再生されたメッセージを送信してもよい旨の選択を行なった場合には（ステップA3のYESルート参照）、ATM2は、このメッセージをインターネット/イントラネット11を介してメッセージサーバ4へ送信する（ステップA4）。

【0052】

メッセージを受信したメッセージサーバ4は、この受信したメッセージをハードディスク41に保管した後、このメッセージの保管場所を保管場所情報（インターネットアドレス等）としてインターネット／イントラネット11を介してATM2に送信する（ステップA5）。

そして、メッセージサーバ4からメッセージの保管場所情報を受信したATM2は、振込依頼人が行なった振込取引に関する振込情報とともに、このメッセージの保管場所情報を、専用線13を介して勘定系ホストコンピュータ1に送信する（ステップA6）。

【0053】

勘定系ホストコンピュータ1は、送信された振込情報に基づいて振込処理を行ない、更に、受信したメッセージの保管場所情報を、この振込情報とともに管理する。

次に、ATM2は、振込依頼人から振込先へメッセージを入力した旨を通知するための電子メールを送信するかどうかを確認する（ステップA7）。

【0054】

電子メールを送信する場合には（ステップA7のYESルート参照）、ATM2は、図5に示すような、振込先顧客の電子メールアドレスの入力用画面をディスプレイ34に表示させ、振込依頼人は、タッチセンサパネル等（ディスプレイ34に表示されたキー入力部）から振込先顧客の電子メールアドレスを入力する（ステップA8）。

【0055】

なお、振込依頼人に対してタッチセンサパネル等から振込先顧客の電子メールアドレスを入力させる代わりに、勘定系ホストコンピュータ1において、あらかじめ振込先顧客の電子メールアドレスを振込先顧客の口座情報とともに登録しておき、図6に示すように、この登録されている振込先顧客の電子メールアドレスをディスプレイ34に表示させて、振込依頼人に確認させてもよく、これにより、振込依頼人が電子メールアドレスを入力する労力を削減することができるとともに、電子メールアドレスの誤入力を防止することができる。

【0056】

そして、A T M 2 は、入力された振込先顧客の電子メールアドレスに、例えば、「〇〇様より振込メッセージが届いております。振込メッセージは”http://www.\*\*\*\*.\*\*\*\*/\*\*\*\*~” に保管されております。」という文面を記述した電子メールを送信して、振込先顧客に対して振込メッセージが届いている旨およびその振込メッセージの保管場所を通知する（ステップ A 9）。

【 0 0 5 7 】

また、振込先顧客に対して電子メールを送信しない場合には（ステップ A 7 の N O ルート参照）、そのまま終了する。

一方、振込依頼人がメッセージの入力を行なわない場合には（ステップ A 1 の N O ルート参照）、A T M 2 は、振込情報のみを勘定系ホストコンピュータ 1 に送信して処理を終了する。

【 0 0 5 8 】

（ 2 ） パーソナルコンピュータ 6 におけるメッセージの入力

パーソナルコンピュータ 6 において振込依頼人が振込先顧客に対する振込処理を行なった場合においても、前述した A T M 2 と同様に、振込先顧客に対するメッセージを送信することができる。

この場合、パーソナルコンピュータ 6 においては、メッセージは画像入力部 3 3' や音声入力部 3 2' を用いて入力され、又、振込情報およびメッセージはインターネット／イントラネット 1 1 を介して勘定系ホストコンピュータ 1 に送信される。そして、振込依頼人に対して電子メールを送信する際には、振込依頼人は図示しないキーボードやマウスを用いて振込先顧客の電子メールアドレスが入力され、これらの点を除いては、A T M 2 におけるメッセージの入力と略同様に行なわれるのである。

【 0 0 5 9 】

（ 3 ） A T M 3 におけるメッセージの受信・再生

図 7 は本システムの A T M 3 におけるメッセージの受信に関する工程を説明するためのフローチャート（ステップ B 1 ～ B 6 ）、図 8 は振込先顧客に対するメッセージが届いていることを示すための画面の表示例を示す図である。

なお、本実施形態においては、振込先顧客が A T M 3 を用いて振込処理の確認

を行なった際に、振込元（振込依頼人）からのメッセージがあることを認識した場合に、このATM3を用いてメッセージを再生する工程を説明するものであり、このATM3が第2の自動取引装置として機能する場合について説明する。

【0060】

さて、振込先顧客がATM3において、通帳記帳や預金引出し等の各種の取引処理を行なう場合には、ATM3は、勘定系ホストコンピュータ1に管理されている振込情報を調べ、振込情報にメッセージの保管場所情報が付加されているかどうかを確認する（ステップB1）。

振込情報にメッセージの保管場所情報が付加されている場合には（ステップB1のYESルート参照）、ATM3は、振込先顧客に対するメッセージがあると判断して、ディスプレイ34に、図8に示すような、メッセージを再生するかどうかを振込先顧客に確認するための画面を表示させる（ステップB2）。

【0061】

ここで、振込先顧客がタッチセンサパネル等を用いてメッセージを再生しない旨を選択すると（ステップB2のNOルート参照）、ATM3は専用線13を介して勘定系ホストコンピュータ1からメッセージの保管場所情報を受信し、このメッセージの保管場所情報を伝票や通帳に印字して（ステップB6）、処理を終了する。

【0062】

また、振込先顧客がメッセージの再生を行なう旨の選択を行なった場合には（ステップB2のYESルート参照）、ATM3は専用線13を介して勘定系ホストコンピュータ1からメッセージの保管場所情報を受信し、次に、このメッセージの保管場所情報に基づいてインターネット/イントラネット11を介してメッセージサーバ4からメッセージを受信した後、このメッセージをディスプレイ34や音声再生出力部31を用いて再生する（ステップB3）。

【0063】

次に、ATM3は、このメッセージをメッセージサーバ4に保管するかどうかを振込先顧客に確認するための表示をディスプレイ34に行ない（ステップB4）、振込先顧客がメッセージを保管する旨の選択を行なった場合には（ステップ



B4のYESルート参照)、ATM3は、メッセージの保管場所情報を伝票や通帳に印字した後(ステップB6)、処理を終了する。

【0064】

なお、振込先顧客がメッセージを保管しない旨の選択を行なった場合には(ステップB4のNOルート参照)、ATM3はかかるメッセージをハードディスク41から削除した後(ステップB5)、処理を終了するのである。

また、振込情報にメッセージの保管場所情報が付加されていない場合には(ステップB1のNOルート参照)、そのまま処理を終了する。

【0065】

なお、ディスプレイ34や音声再生出力部31をそなえておらず、メッセージの再生を行なう機能を有していないATMにおいては、メッセージの保管場所情報を伝票や通帳に印字して、後日、パーソナルコンピュータ5、6や情報端末7を用いてメッセージを受信することができるようにする。

(4) パーソナルコンピュータ5におけるメッセージの受信・再生

図9は本システムのパーソナルコンピュータ5におけるメッセージの受信に関する工程を説明するためのフローチャート(ステップC1~C4)であり、この図9を用いて、パーソナルコンピュータ5においてメッセージを再生する工程を説明する。

【0066】

パーソナルコンピュータ5において、振込元からのメッセージが届いている旨およびその振込メッセージの保管場所が記述されたATM2からの電子メールを受信した後、そのメッセージをパーソナルコンピュータ5において再生する場合には、パーソナルコンピュータ5は、インターネット/イントラネット11を介して、メッセージサーバ4に対してメッセージを送信するように要求し(ステップC1)、受信したメッセージを、ブラウザ等のアプリケーション等によってスピーカ31'やディスプレイ34'で再生する(ステップC2)。

【0067】

そして、パーソナルコンピュータ5は、このメッセージをメッセージサーバ4に保管するかどうかを振込先顧客に確認するための表示をディスプレイ34'に

行ない（ステップC3）、振込先顧客がキーボードやマウス等を用いてメッセージを保管する旨の選択を行なった場合には（ステップC3のYESルート参照）、そのまま処理を終了する。

【0068】

一方、振込先顧客がメッセージを保管しない旨の選択を行なった場合には（ステップC3のNOルート参照）、パーソナルコンピュータ5は、インターネット／イントラネット11を介して、ハードディスク41に保管されているメッセージデータを削除した後（ステップC4）、処理を終了するのである。

（5）パーソナルコンピュータ6におけるメッセージの受信・再生

パーソナルコンピュータ6においても、パーソナルコンピュータ5と同様に、電子メールの受信や、振込元からのメッセージの受信および再生を行なうことができるほか、更に、振込先顧客が、パーソナルコンピュータ6によって、インターネット／イントラネット11を介して勘定系ホストコンピュータ1に接続して残高確認や振込処理等の各種の取引処理を行なう場合には、ATM3と同様に、パーソナルコンピュータ6は勘定系ホストコンピュータ1に管理されている振込情報を調べ、振込情報にメッセージの保管場所情報が付加されているかどうかを確認する。

【0069】

そして、振込情報にメッセージの保管場所情報が付加されている場合には、パーソナルコンピュータ6は、ATM3やパーソナルコンピュータ5等と同様に、そのメッセージを再生するかどうかを振込先顧客に対して確認した後、メッセージの再生や保存、削除等を行なうのである。

（6）情報端末7におけるメッセージの受信・再生

情報端末7において、振込先顧客が、ATMによって伝票や通帳に印字されたメッセージの保管場所情報を入力することにより、情報端末7は、パーソナルコンピュータ5と同様に、メッセージサーバ4に対して、インターネット／イントラネット11を介してメッセージを送信するように要求し、受信したメッセージを、ブラウザ等のアプリケーション等によってスピーカ31"やディスプレイ34"で再生する。

【0070】

また、情報端末7は、パーソナルコンピュータ5、6およびATM3と同様に、受信したメッセージを、ハードディスク41に保存させたり削除したりすることができる。

(7) ATM9におけるメッセージの受信・再生

振込先が勘定系ホストコンピュータ1で用いられる電文形式とは異なる電文形式により取引を管理する勘定系ホストコンピュータ8の管理下に属する場合において、その振込先顧客が通帳記帳や預金引出し等の各種の取引処理を行なう場合においても、前述の図7（ステップB1～B6）を用いて説明したATM3における場合と同様に、振込先顧客は、ATM9においてメッセージの受信・再生や削除、および伝票や通帳等にメッセージの保管場所情報の印字を行なうことができる。なお、この場合においては、このATM9が第3の自動取引装置として機能するものである。

【0071】

この場合において、勘定系ホストコンピュータ1と勘定系ホストコンピュータ8との間において、少なくともメッセージの保管場所情報を相互に授受できるようにすることにより、電文形式が異なる勘定系ホストコンピュータの管理下の振込先にも、振込依頼人から振込先顧客に対するメッセージを送信することができる。

【0072】

このように、本発明の一実施形態としての自動取引システムによれば、振込依頼人が入力したメッセージをインターネット／イントラネット11に接続されたメッセージサーバ4のハードディスク41に格納するので、インターネット／イントラネット11に接続された情報機器、例えば、コンビニエンスストア等に配設された情報端末7や、顧客のパーソナルコンピュータ5、6から、そのメッセージの内容を確認することができ、振込先顧客が銀行等に行かずに振込元からのメッセージの内容を容易に確認することができ、メッセージ内容の確認に要する振込先顧客の労力を軽減することができるほか、利便性が向上する。

【0073】

また、振込元からのメッセージをインターネット／イントラネット 11 に接続されたメッセージサーバ 4 のハードディスク 41 に格納し、勘定系ホストコンピュータ 1, 8 においては振込情報とそのメッセージの保管場所情報だけを管理するので、画像（静止画像、動画像）データや音声データのようにデータ量が大きいメッセージを取り扱う場合においても、既存の勘定系ホストコンピュータ 1, 8 や専用線 13, 14, 15, 16 等の情報基盤を利用することができ経済的である。

【0074】

また、勘定系ホストコンピュータ 8 と勘定系ホストコンピュータ 1 との間において、取引情報（振込情報）とともに、少なくともメッセージの保管場所情報を相互に送受信できるように構成することにより、振込依頼人が、異なる電文形式により取引を管理する勘定系ホストコンピュータ 8 の下に属する振込先に対する振込取引を行なう際においても、画像や音声等のメッセージの送受信を行なうことができる。

【0075】

さらに、振込元からのメッセージの再生にあたり、インターネット／イントラネット 11 に接続可能なパーソナルコンピュータ 5, 6 や情報端末 7 からインターネット／イントラネット 11 を介してメッセージにアクセスして再生することができるので、振込先顧客が銀行等に行かずにメッセージの内容を確認することができ、メッセージ内容の確認に要する振込先顧客の労力を軽減することができるほか、利便性が向上する。

【0076】

また、振込取引時に、振込情報とともに、画像入力部 33 および音声入力部 32 から入力した画像（動画像、静止画像）や音声によるメッセージを振込先に対して送信することができるので、振込先顧客と振込依頼人との間における伝達等を円滑に行なうことができ、双方の労力を軽減することができる。

さらに、振込先顧客に、電子メールによって、振込依頼人からのメッセージが入力されたことを通知するので、振込先顧客が銀行等に行かなくても振込が行なわれたことやメッセージが入力されたことを知ることができるので、振込先顧客

の労力を軽減することができる。

【0077】

なお、上記実施形態に関わらず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形して実施することができる。

例えば、上記実施形態では、メッセージサーバ4は、メッセージをハードディスク41に保管しているが、それに限定されるものではなく、メッセージサーバ4は、インターネット／イントラネット11から接続可能な記憶用媒体にメッセージを保管してもよい。

【0078】

また、上記実施形態では、公衆通信網としてインターネット／イントラネット11を用いているが、それに限定するものではなく種々変形して実施することができ、インターネット技術等を用いて構成された他のネットワークであってもよい。

【0079】

【発明の効果】

以上詳述したように、本発明の自動取引システムによれば、以下の効果ないし利点がある。

(1) 振込先顧客が、振込元からのメッセージを公衆通信網を介してメッセージ保管部に接続された情報端末によって受信することができるので、振込先顧客が容易にメッセージを受信することができ、メッセージ内容の確認に要する振込先顧客の労力を軽減することができるほか、振込元顧客と振込先顧客との間で円滑に情報伝達を行なうことができ利便性が向上する(請求項1, 請求項5)。

【0080】

(2) 振込元からのメッセージを専用線を介して送信したり、又、メッセージを管理装置内に保管することがないので、画像データや音声データ等のデータ量が大きいメッセージを取り扱う場合においても、第1の自動取引装置と管理装置との間における取引情報の通信に影響を与えることがないほか、既存の専用線や管理装置をそのまま用いることができ経済的である(請求項1)。

【0081】

(3) 振込先顧客が、振込元からメッセージが入力されたことを容易に知ることができるほか、メッセージの保管場所情報に基づいて、公衆通信網を介してメッセージ保管部に接続されている情報端末から容易にメッセージの内容を確認することができるので、振込元からのメッセージ内容の確認に要する振込先顧客の労力を軽減することができるほか、振込元顧客と振込先顧客との間で円滑に情報伝達を行なうことができ利便性が向上する（請求項2，請求項3）。

【0082】

(4) 振込先顧客が、メッセージの保管場所情報の通知を認識した後に、振込元からのメッセージの内容を容易に確認することができるので、振込先顧客がメッセージ内容を確認するために要する労力を軽減することができる（請求項4）。

(5) 公衆通信網を介してメッセージ保管部に通信可能に接続された情報端末において、通帳や伝票に印字した振込元からのメッセージの保管場所情報に基づいて、メッセージを読み出し、再生することができるので、例えば、何らかの理由により、第2の自動取引装置取引装置においてメッセージの読み出し・再生を行なうことができない場合においても、振込先顧客が、振込元からのメッセージの内容を容易に確認することができ、メッセージ内容の確認に要する振込先顧客の労力を軽減することができるほか、振込元顧客と振込先顧客との間で円滑に情報伝達を行なうことができ利便性が向上する（請求項6，請求項7）。

【0083】

(6) 自動取引装置を用いることなく振込元からのメッセージを再生することができるので、振込先顧客が、振込元からのメッセージの内容を容易に確認することができ利便性が向上する（請求項8）。

(7) 自動取引装置を用いることなく振込取引を行なうことができ、更に、この際に振込先に対するメッセージを入力することもできるので、顧客の利便性が向上する（請求項9）。

【0084】

(8) 異なる電文形式により取引を管理する他の管理装置下に属する振込先に対しても、振込元からのメッセージを送信することができ、又、この場合におい

ても、メッセージが専用線を介して送信されたり、メッセージを管理装置内に保管することがないので、画像データや音声データ等のデータ量が大きいメッセージを取り扱う場合においても、第1の自動取引装置と管理装置との間の専用線や、管理装置と他の管理装置との間の専用線における取引情報の通信に影響を与えることがないほか、既存の専用線や管理装置をそのまま用いることができ経済的である（請求項10，請求項11）。

【0085】

（9）振込先においては、振込元を画像や音声によって確認することができるので、利便性が向上する（請求項12，13）。

（10）自動取引システムを簡易に構成することができるので経済的である（請求項14）。

（11）振込元からのメッセージの機密性を高めることができる（請求項15）。

【0086】

（12）メッセージ保管部を確実に実現することができるほか、メッセージの取り扱いに対する信頼性も向上させることができ、本自動取引システムに対する信頼性を向上させることができる（請求項16）。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の一実施形態としての自動取引システムの構成を示すブロック図である。

【図2】

本システムのATMにおけるメッセージの入力および送信に関する工程を説明するためのフローチャートである。

【図3】

振込先顧客に対してメッセージを送信するか否かを確認するための画面の表示例を示す図である。

【図4】

振込先顧客によりメッセージの送信を要求されている場合の画面の表示例を示す図である。

す図である。

【図 5】

振込先顧客の電子メールアドレスを入力する場合の画面の表示例を示す図である。

【図 6】

振込先顧客の電子メールアドレスを入力する場合の画面の表示例を示す図である。

【図 7】

本システムの A T Mにおけるメッセージの受信に関する工程を説明するためのフローチャートである。

【図 8】

振込先顧客に対するメッセージが届いていることを示すための画面の表示例を示す図である。

【図 9】

本システムのパーソナルコンピュータにおけるメッセージの受信に関する工程を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 勘定系ホストコンピュータ（管理装置）
- 2 A T M（自動取引装置，第 1 の自動取引装置）
- 3 A T M（自動取引装置，第 2 の自動取引装置）
- 4 メッセージサーバ（メッセージ保管部）
- 5 パーソナルコンピュータ（情報端末）
- 6 パーソナルコンピュータ（情報端末）
- 7 情報端末（メッセージ再生機能付き情報端末）
- 8 勘定系ホストコンピュータ（他の管理装置）
- 9 A T M（自動取引装置，第 3 の自動取引装置）
- 1 1 インターネット／イントラネット（公衆通信網）
- 1 3，1 4，1 5，1 6 専用線
- 3 1 音声再生出力部（メッセージ再生部）



31' , 31" スピーカ

32 音声入力部 (メッセージ入力部)

32' 音声入力部

33 画像入力部 (メッセージ入力部)

33' 画像入力部

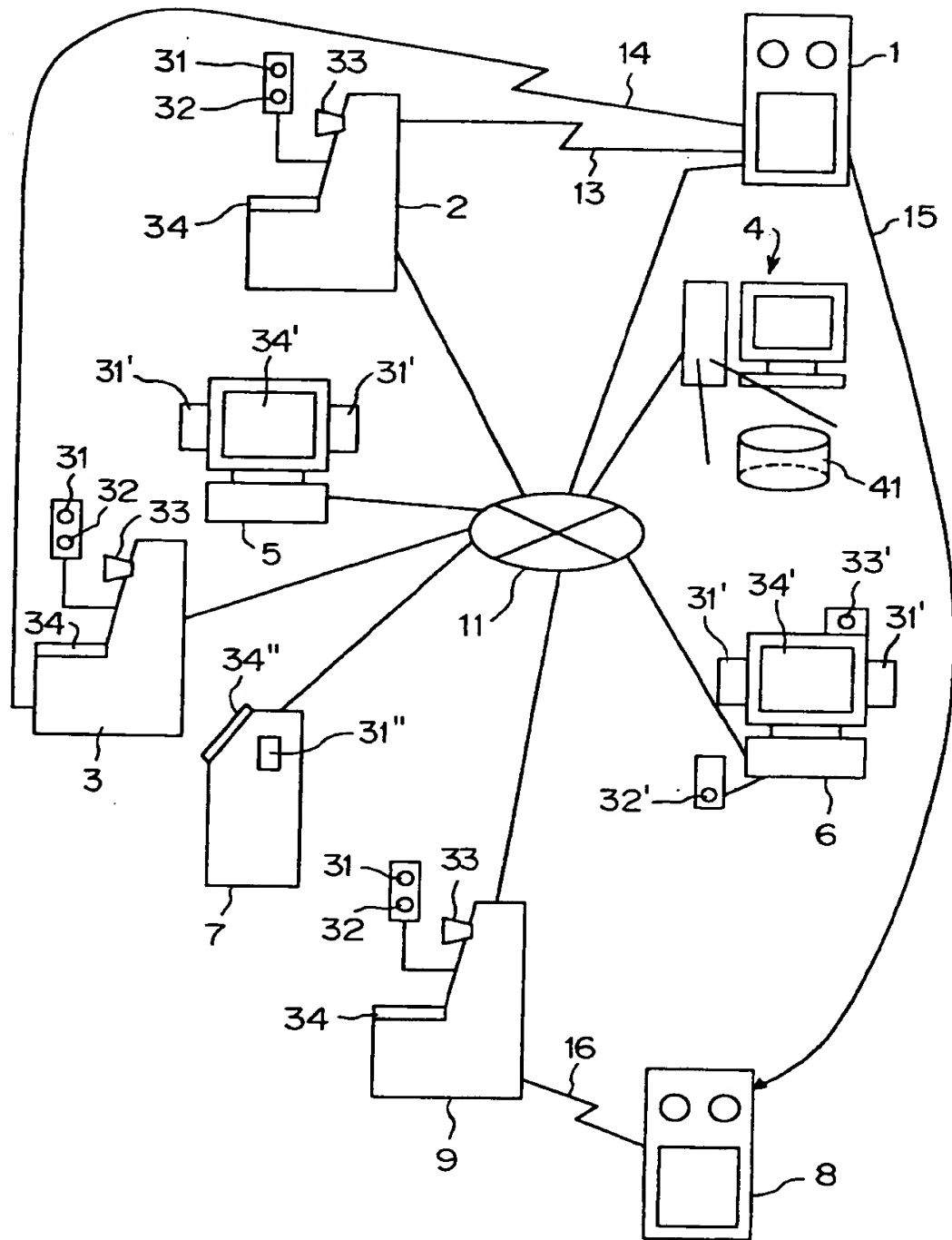
34 ディスプレイ (画像再生出力部, メッセージ再生部)

34' , 34" ディスプレイ

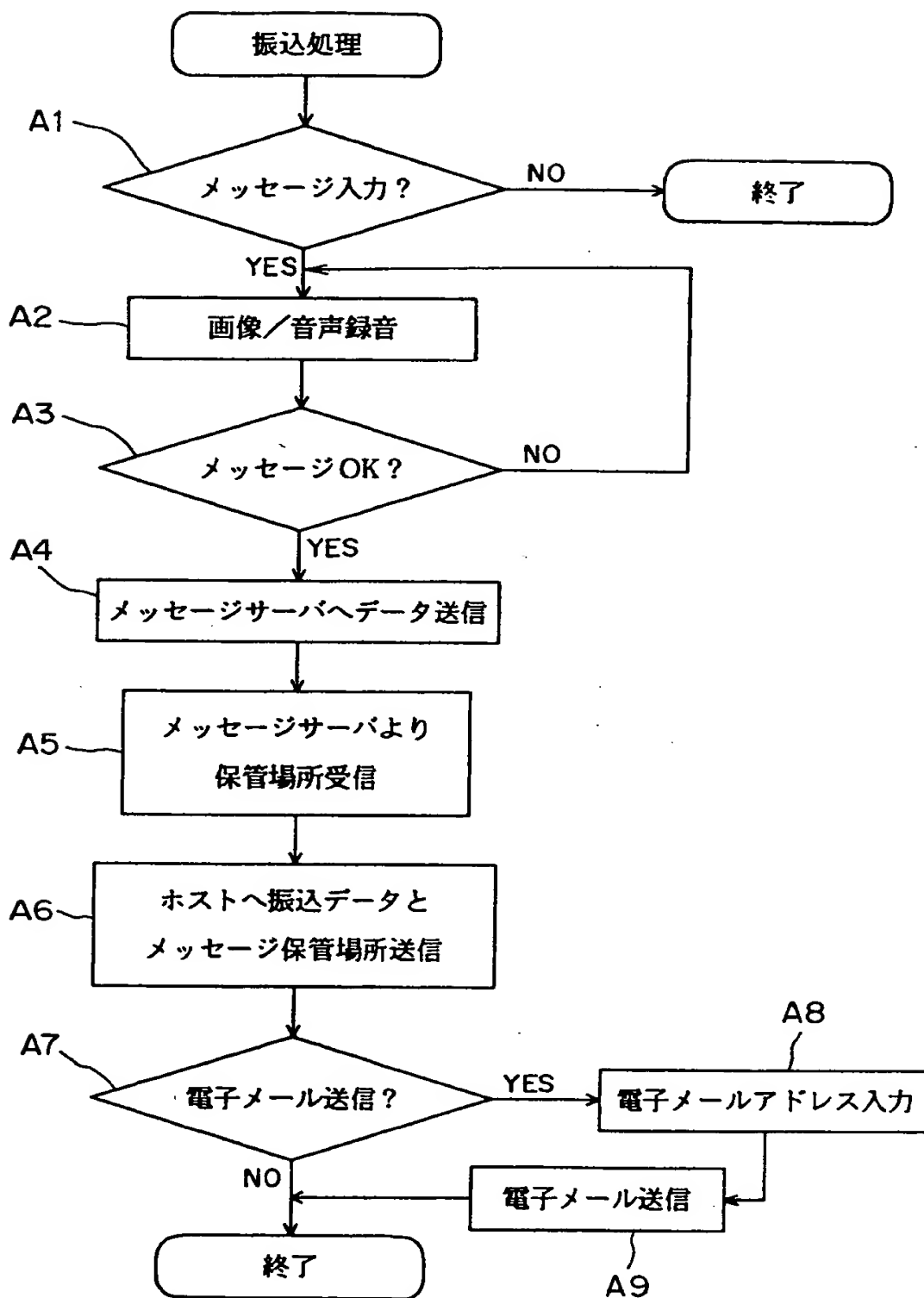
41 ハードディスク

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【図 3】

34

振込先様宛にメッセージを  
送信しますか？

はい

いいえ

【図 4】

34

振込先様よりメッセージの  
送信を要求されています。  
メッセージを送信します。

はい

いいえ

【図 5】

[illegible]

【図 6】

34

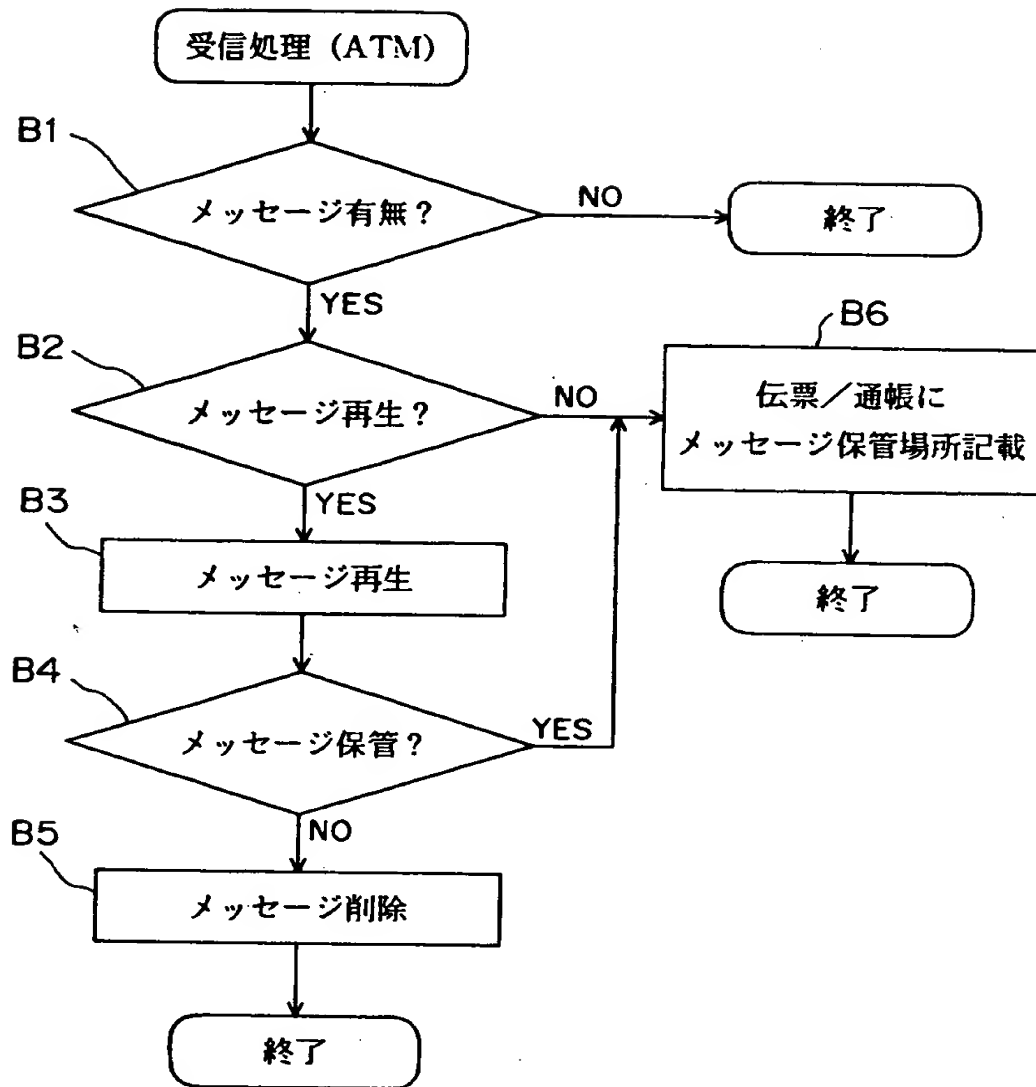
振込先様にe-mailで  
メッセージ及び振込の通知を  
行ないます。  
登録アドレスは下記の通りです。

abc@abc.efg.hij

確認

終了

【図 7】



【図 8】

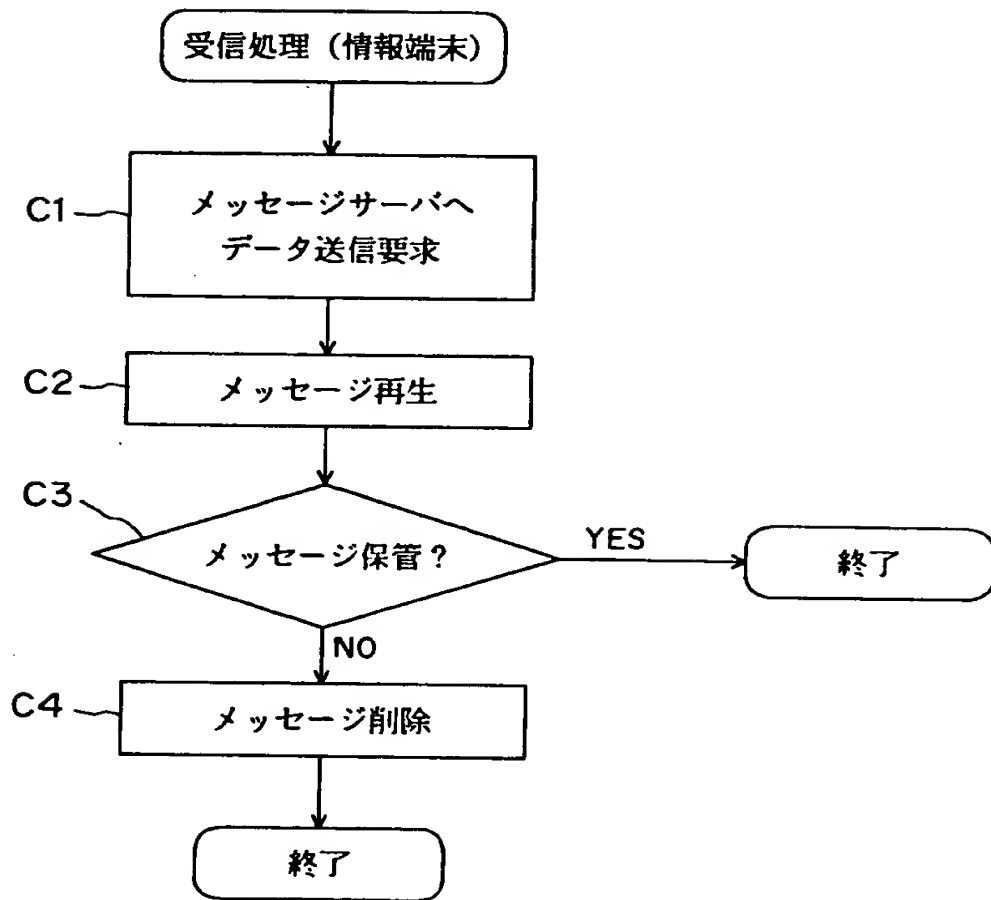
34

〇〇様より振込メッセージが  
届いております。  
メッセージを受信しますか？

はい

いいえ

【図 9】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 振込元から振込先に対してデータ量の大きい画像データや音声データを含むメッセージを送信することができるほか、電文形式の異なる管理装置下に属する振込先にも画像データや音声データを含むメッセージを送信することができ、更に、振込先においては、場所，時間，端末等の制約を受けることなくメッセージを送受信することができるようにして、顧客の利便性の向上をはかる。

【解決手段】 自動取引装置 2 がメッセージ入力部 3 2，3 3 を有するとともに公衆通信網 1 1 を介してメッセージ保管部 4 と通信可能に接続され、自動取引装置 2 において顧客が振込取引時に振込先に対して入力したメッセージを、公衆通信網 1 1 を介してメッセージ保管部 4 へ送信しメッセージ保管部 4 で保管するとともに、振込情報とそのメッセージの保管場所情報とを自動取引装置 2 から専用線 1 3 を介して管理装置 1 へ送信し管理装置 1 により管理するように構成する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日 1996年 3月26日

[変更理由] 住所変更

住 所 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号

氏 名 富士通株式会社